

日本語と私

張舒哲

教育学部 日本語・日本語文化研修留学生 中国

和歌山に来たのは去年の9月だった。あっという間に、9ヶ月間の時間が過ぎてしまった。この9ヶ月で、私は勉強も旅行も、様々なことを体験した。先生や日本の方から、「和歌山での生活はどう」とよく聞かれた。平気な顔をして「楽しいよ」と答えてきた。「楽しかった」という回答は、実は礼儀正しい模範回答だ。私の留学体験は、そのような簡単な言葉で一括するものではなかった。これまでの9カ月、私は悲喜交々と過ごした。

和歌山での初日のことを、まだ覚えている。一人で飛行機に乗り、関西空港に着いた。同じ日研生の中国人留学生たちと一緒に学校に行くと約束したから、空港で3時間待っていた。お腹がすき、レストランで昼ご飯を食べたかったが、日本語で注文するのが怖く、結局コンビニエンスストアですましてしまった。ようやく二人の留学生と会い、一緒にバスに乗ってJR和歌山駅に着いた。国際交流センターの先生たちと会い、先生の車でアパートに行く途中、先生が来日についての挨拶をされた。今思い出しても恥ずかしいのだから、そのとき私は何も話さなかった。他の中国人留学生の日本語があまりにも上手で、私はびっくり仰天して言葉も出てこなかった。

和歌山での最初の日々は、落ち込んだ気分で過ごした。友達へのメッセージは意気消沈したことばかりだった。「みんなは私より日本語が上手だ」と。今思い出すと、私はそのとき、無理をしていた。落ち着いて考えると、私の日本語もそんなに下手ではなかった。少なくとも、店で注文することはできるはずだった。しかし、私は最初から日本人のように話すことを無理に自分に要求した。それで、私は自分が自分をがっかりさせた。恥をかくことを怖がり、日本人と話すこともずっと拒否していた。いっそ勉強なんかを諦め、遊びだけでも楽しんで、一年間我慢して帰国してしまおうと考えた時期もあった。まるでやけになった子供みたいだった。幸いなことに、今の私は、もうそのように慌てたりしない。和歌山での生活に慣れたというか、最初の頃より自分への目標を下げたのかもしれない。最初の頃ほど向上心はないが、楽に日本語で話すことができるだろう。自分の能力以上のことを求めず、落ち着いてしっかりする態度で他人と交流したいと、今私はそう思っている。

日本に来てから、様々なことで、落ち込んだりしたが、日本語に関することに一番関心を持っている。うまく自分の考えを述べられないとき落ち込むこともあるが、少しだけ自分の日本語が上手になったと感じると大変喜ぶようになる。他の留学生と出会うときも、まずは彼らの日本語能力を観察する。ペラペラ日本語が話せる人がいれば、すごいなと感心する。振り返ってみると、私はやはり日本語が好きだ。なぜ日本語を勉強するかという質問は来日の留学生によく聞くが、日本の文化が好きな場合が多いらしい。しかし、私はそうではなかった。私も日本の文化に中学校から接触したが、それが好きで日本語の勉強を始めたというわけではない。英語を専攻したかったが、受験の点数が足りなくて落ちてしまった。しかしやはり言語に興味があり、日本語を専攻した。それで2年日本語を勉強

し、留学生として和歌山に来た。日本語がなかなか上手になれなく、留学生活が嫌になるときもあるが、私は常に自分の明日の日本語能力を期待している。それだけでも留学生活は面白くなる。

今年9月になると、私も帰国することになる。そのときの私はどのような気持ちだろう。一年間楽しんで、離れるのは後ろ髪を引かれる思いがするのだろうか。それとも、やっと一年間が終わり、帰国することに矢も楯もたまらないのだろうか。いずれにせよ、和歌山に来たことには後悔はない。楽しい思い出も悲しい思い出も大切な宝物であり、私は一生懐かしむだろう。



和歌山に来たばかりのとき、加太の海辺に行った。そのとき落ち込んでいた私にとって、加太の澄み切った海水は心を癒す存在だった。



海を見たかった私は、一人で自転車に乗り、地図をチェックしながら、和歌浦の方へ行った。自転車は上手ではなかったため、2回自転車から落ちてしまったが、気持ち的にはすごくよかった。



この写真が好きだ。和歌山の海は美しかった。海と空の青色と箱の黄色がはっきりと対照しており、見渡すかぎり鮮やかな彩りばかりだった。

瀬戸内海と太平洋の境を接しているところ。そこに立っていると、日本の広さを感じた。



我与日语

张 舒哲

去年9月，我从中国来到了日本和歌山。转瞬之间，9个月的时间就过去了。在这9个月间，我在学校学习，或是出去旅游，体验了很多事情。日本的老师和其他日本朋友们总会问我，“在和歌山过得怎么样啊”这个问题。我总是平淡地说着“非常开心”来敷衍了事。说是很开心，其实这只是一个标准回答。我的留学感受，并不是用那简单的词语就概括完全的。至今为止的9个月，我是在悲喜交加的复杂情绪中度过。

我还记得第一天来到和歌山时的事。自己一个人登上飞机，降落到了关西机场。因为和同是日研生的中国留学生约好一起去学校，我在机场等了3个小时。期间感到肚子饿，想去餐厅吃点东西，却因为害怕用日语点餐，最后只在便利店随便买了个东西吃了。好不容易等到了另两位留学生，三人一起坐上巴士，出发前往JR和歌山站。在JR和歌山站我们和国际交流中心的老师们汇合，搭上老师的车前往自己的宿舍。在行驶途中，老师问候了我们初来日本的感觉。现在想起来依旧让我羞耻的是，当时在车上我什么话也没说。其他的留学生的口语是那样流利，我因此受到打击而连日语都说不出口。

就这样，在和歌山的第一天，我是在十分消沉的情绪中度过的。给朋友发的消息里也都是些丧气话：谁的日语都比我要好，等等。现在想来，那个时候，我其实是在勉强自己。冷静下来想想，我当时的日语也没有那样差劲。至少没差劲到连用日语点餐都点不了。但是，我从一开始就难为自己日语要讲得像日本人一样好。也是因为这不切实际的目标，我是自己让自己失望了。害怕丢脸，也拒绝着和日本人交流。有一段时间，我还心怀过干脆不再忧心学习，吃喝玩乐熬过一年回国的想法。简直就像个赌气的孩子一样。所幸的是，现在我已不再那样慌张了。也许是习惯了在和歌山的生活，也许是降低了一开始定下的目标吧。我不如刚来和歌山时积极上进了，但也因此能放轻松心态去讲日语了吧。现在我不再想着超越自己能力的事，而只希望能心平气和地和别人交流。

来到日本后，我因为很多事情情绪低落过，其中最牵动我的果然还是日语相关的事。比方说无法用日语自由地表达自己的想法时就会很消沉，而感觉自己的日语进步了一点点就会很高兴。见到其他留学生时，最先在意的是他们的日语水平。要是有人日语讲得很流利，我就会暗自敬佩。回过头想，我果然还是喜欢日语的。对于留学生，经常会有为什么开始学日语这样的问题。其中很多人是因为日本文化而对日语感兴趣的。而我并非如此。我一开始是想修英语专业的，但因分数不够而落选了。想着还是想读语言，就转而修了日语专业。就这样学习了两年日语，现在作为留学生来到了和歌山。虽然有时会因为感受不到日语的进步而厌烦起留学生活，但我还是对自己的日语水平充满期待。只是这样的期待，就能撑起留学生活的乐趣。

今年9月我就将要回国了。到了那个时候我会是怎样的心情呢。是会留恋留学生活的美好而舍不得离开，还是会想要迫不及待地回国呢。无论如何，来到和歌山留学一事都不曾让我后悔。开心或是难过都将成为珍贵的回忆，让我一生缅怀。